

先生の声

2時間小単元という考え方は、これまで全く持っていなかったのが最初は戸惑っていたが、書籍を参考に実践してみると、子どもたちがとても楽しそうに話し合いに参加し始めたり、自分の考えを自信を持って発表したりできるようになったことが新鮮だった。はがき新聞にも深い考えをしっかりと短時間に書けるようになり、子どもたちも道徳科の授業が大好きになっている。単元開発は大変だが、校内の先生方と一緒に組織的に取り組んでいる。

いつも道徳の授業をして感じていたのは、「あと10分あればもっと子どもたちの考えを生かしたのにとか、「次の時間も続けて対話をさせたら、子どもたちの深い気付きに迫れたの」という後悔ばかりだった。しかし2時間小単元に取り組んでみると、そうした後悔がいっぺんに吹き飛んで、子どもたちと毎回深くねばり強く考える楽しさを味わっている。学期に2単元程度なら無理なく続けられて助かっている。

道徳科の評価では、これまで子どもたちが書いた道徳ノートを参考にしていたが、どれも形式的で優等生的な事ばかりが書いてあり、通知表や指導要録の評価文が書きにくいと感じていた。しかし、2時間小単元で取り組むと、子どもたちも多様な友だちの考えに触れて自分の考えが深まることが実感できるからか、ほめて励ましたくなる気付きを多く書いてくれるようになった。それを生かして評価文を書くことが楽しくなっている。

子どもたちの感想

これまで、私は道徳の授業はあまり好きではありませんでした。なぜかという、ゆっくりと考える時間がなくてあせって考えるのがいやだったし、自分の考えに自信がないのに発表するのが好きではなかったからです。でも、今日の2時間続きの道徳はそれとは反対で、友だちの考えを聞くのも楽しいし、しっかりと意見を持てるのもうれしいからです。

今日の道徳科の授業では、モラルクエストカードを使って友だちと長時間話し合いをして、「いじりといじめ」について自分の考えを深めることができました。宿題でワークシートに自分の考えを書いてきたり、授業が終わってからはがき新聞を書いたり大変ですが、自分が成長している感じがするので、またやりたいです。

図書紹介



道徳ツールとアクティビティでできる「考え、議論する」道徳ワークショップ

道徳科の目標をよりよく達成するために考案された多様な道徳ツールと道徳アクティビティが満載。小中学校の豊富な実践例を通して、道徳ワークショップの授業づくりや2時間小単元の構成法がよく分かる。

田中 博之・梅澤 泉・彦田 泰輔(共著)
道徳科授業サポートBOOKS



アクティブ・ラーニング「深い学び」実践の手引き

「主体的・対話的で深い学び」の視点を生かした授業づくりの理論と実践が豊富に収められている。道徳科の実践事例も小中合わせて2事例を掲載。

田中 博之(著)
教職研修総合特集



改訂版 カリキュラム編成論—子どもの総合学力を育てる学校づくり—

道徳科で実践する、多様な問題解決的な学習のためのカリキュラム編成の在り方を、小中学校の実践事例の解説を交えて具体的に検討している。

田中 博之(著)
放送大学大学院教材

道徳科教育研究会 <https://morallearning.org/>

〒169-8050 東京都新宿区西早稲田1-6-1 早稲田大学教職大学院 田中博之研究室



- このパンフレットは、公益財団法人日本教育公務員弘済会から平成31年度日教弘本部奨励金「はがき新聞を活用した道徳科の学習状況の評価に関する研究」を得て作成されています。
- 道徳科教育研究会は、早稲田大学教職大学院教授・田中博之研究室が主催しています。
- 制作・発行 2020年3月18日

新学習指導要領道徳科準拠

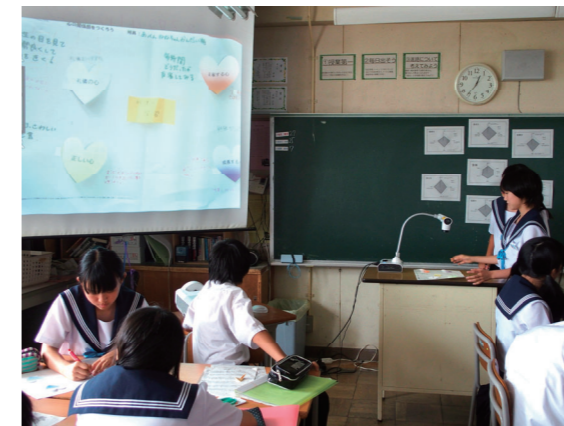
2時間小単元による

道徳ワークショップの授業づくりと学習評価

道徳的諸価値の理解に基づき

物事を多面的・多角的に考え

自己の生き方についての考えを深める



道徳科教育研究会

田中 博之

早稲田大学教職大学院・教授

教科化の悩み・・・

- 指導書通りに発問すると、子どもたちも退屈そうで形式的な意見しか出てこない。
- あと少し時間があつたら深い気づきが生まれたのと思うことが多い。
- 35時間から内容項目の数を引いた残りの時間はどうすればよいかわからない。
- 毎時間教科書教材を使おうとしても、内容によっては使いづらい教材がある。
- 多面的・多角的に深く考えさせようとしても、1時間では終わらない。



法令根拠はどうなっているの？

小学校学習指導要領(平成29年3月告示)

第3指導計画の作成と内容の取扱い

1.各学校においては、道徳教育の全体計画に基づき、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動との関連を考慮しながら、道徳科の年間指導計画を作成するものとする。なお、作成に当たっては、第2に示す各学年段階の内容項目について、相当する各学年において全て取り上げることとする。その際、児童や学校の実態に応じ、2学年間を見通した重点的な指導や内容項目間の関連を密にした指導、**二つの内容項目を複数の時間で扱う指導を取り入れるなどの工夫**を行うものとする。

解説

道徳科においては、1つの主題を1単位時間で取り扱うことが一般的であるが、内容によっては**複数の時間の関連を図った指導の工夫**などを計画的に位置付けて行うことも考えられる。例えば1つの主題を2単位時間にわたって指導し、道徳的諸価値の理解に基づいて人間としての生き方についての学習を充実させる方法、重点的な指導を行う内容を複数の教材による指導と関連させて進める方法など様々な方法が考えられる。

では、2時間構成で小単元を作って授業をできないの？

できます！

年間授業時数と内容項目の数の差の時間をどう使うかは、校長の裁量次第です！

！ 各学期に2～3回程度は、2時間小単元による道徳ワークショップを実施しましょう！



2時間道徳のメリットは？

- 道徳科で「主体的・対話的で深い学び」ができる！
- 子どもたちが、道徳科の授業を楽しみにするようになる！
- 複数の内容項目を関連付けた指導の工夫ができる！
- それまで発言しなかった子どもたちが、積極的に対話に参加したり発表するようになる！
- 「多面的・多角的に考える」ことに十分時間をかけられる！
- 子どもたちの発言回数や発言時間が飛躍的に多くなる！
- 道徳的諸価値の理解を段階的に深めることができる！
- 時間的な余裕が、子どもたちの本音と本気を引き出す！

では、どんな2時間構成のタイプや授業の方法があるの？

- | | | | | |
|--|--|---|--|--|
| 1
1時間目は教科書教材に沿って考え(習得)、2時間目は身近な題材を自分事としてとらえる。(活用) | 2
1時間目は教師の課題設定に沿って考え、2時間目は自分で問いを作って対話し解決する。 | 3
1時間目は主となる内容項目から考え、2時間目は副となる複数の内容項目を関連付けて考える。 | 4
1時間目は教科書教材に沿って考え、2時間目は関連する副教材を用いて多面的・多角的に考える。 | 5
1時間目は教科書教材に沿って考え、2時間目に物語の続きや行間を想像させて深く考えるようにする。 |
| 6
2時間目に、一人ひとりが深く考えたプロセスを発表することができる。(理解の深まりの可視化) | 7
2時間目に、振り返りや自己宣言をしっかりと書いて発表することができる。 | 8
地域のゲストティーチャーを呼んで、多様な考え方や視点を取り入れた授業を展開できる。 | 9
1時間目後の「道徳実践週間」の振り返りを2時間目に行う。 | 10
教科書教材の内容的・認知的な飛躍を、スモールステップで2時間をかけて埋めていく。 |

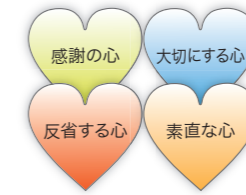
お薦めの道徳ツールや道徳アクティビティは？

● 道徳ツール

多面的・多角的に深く考える！



天使と悪魔

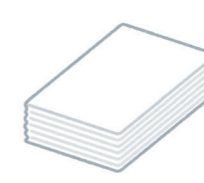


真心カード

心の葛藤図



モラルクエスチョン・カード



対話をうながし価値の理解を深める！

● はがき新聞づくり



自分事として自己の生き方を表現する！

■ 小学校の実践事例

小学校3年道徳科

「宿題はなぜするの？」

東京都新宿区立落合第二小学校
梅澤 泉 先生

「宿題はなぜするの？」をテーマにして、子どもたちは教科書の読み物資料からではなく、児童詩から出発して、自分たちの日常の取り組み「宿題パワーアップ大作戦！」を通して、道徳ツール「真心カード」を用いて主体的・対話的に考え、自分の行動を振り返っていく。道徳的行為とつなげた2時間小単元による授業。

出典 田中博之著『改訂版カリキュラム編成論』放送大学教育振興会、2017年

■ 中学校の実践事例

中学校2年道徳科

「心の関係図を作ろう！」

愛知県尾張旭市立東中学校
彦田 泰輔 先生

特別活動で行っている学級力向上プロジェクトのアンケート結果をリーダーチャートで可視化し、どのような道徳性を発揮すれば学級力がアップするかについて「考える道徳」になることをねらいとした。特別活動と道徳科のクロス・カリキュラムによる先進的な実践。

出典 田中博之著『改訂版カリキュラム編成論』放送大学教育振興会、2017年

■ 道徳科における学習評価のポイント

- ① 数値による評価は行わず、文章表記にする
- ② おおくりの評価であり、観点別評価はしない(学習活動全体を見通す、内容項目ごとの評価ではない)
- ③ 個人内成長を継続的に見取る
- ④ 年間や学期にわたる道徳性の成長を見取る
- ⑤ 児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握する(道徳的諸価値の理解の達成度の評価ではない)
- ⑥ 道徳性の諸様相(道徳的判断力、道徳的心情、道徳的实践意欲及び態度)を評価する
- ⑦ 肯定的な評価を行う(努力を認め、励ます)
- ⑧ 一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的諸価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかといった点を重視

■ 通知表や指導要録における評価文例

「いじりといじめ」について、教科書教材の事例を多面的・多角的に分析して自己の考えを深めるとともに、はがき新聞でいじめをなくす取組例について具体的に書いていました。

「権利と義務」の授業で、両方をバランスよく大切にしていける生き方について、クラスでの話し合いのあり方やルールの決め方等の側面から、友だちとのグループ対話を通して深く考察することができていました。

1学期の授業を通して、友だちの意見をしっかりとふまえて自分の意見を深めることができるようになっていきます。ノートの整理においても、多面的・多角的な考察を要点をふまえて書くことができるようになっていきます。

